



「ひとつのことばを たいせつに」

校長 米山 哲也

新年度が始まり1カ月が過ぎようとしています。爽やかな気候となり、子どもたちも新しい学級、新しい友達とともに、思い思いのスタートを切ることができました。今年度も学習面で、生活面で様々な機会を通して友達との関わりを深め成長していくことでしょう。そのような始まりの大切な時期だからこそ、町田第五小学校の子どもたちには、人と人との関わりを深める「言葉」を大切にしてほしいと思います。今月号では、明治から昭和の時代にかけて活躍した詩人 北原 白秋 の「ひとつのことば」という詩を紹介します。私が小学生の時に会った大好きな詩です。

ひとつのことばを	ひとつのことばを	やさしいことばは	きれいなことばは	ひとつの心を	ひとつのことばは	ひとつのことばで	ひとつのことばで	ひとつのことばで	ひとつのことばで	ひとつのことばで	ひとつのことばで	「ひとつのことば」
美しく	大切に	やさしい心	きれいな心	もっている	それぞれに	泣かされる	楽しく笑い	心が痛む	頭が下がり	なかなかおり	けんかして	北原 白秋

この詩にあるように、言葉はとても大きな力をもっているように感じます。私自身、改めてこの詩を読んで、過去の様々な言葉のやりとりを思い起こしました。ひとつの言葉で大きな喜びを感じ、時には傷つき悲しみを感じたこともありました。言葉を使った会話はキャッチボールのようなものです。強い言葉を投げれば強く投げ返されるでしょう。やさしく相手を取りやすい言葉を投げれば、やさしい言葉が返ってくるでしょう。子どもたちが言葉の大切さを知り、相手に思いやりをもって話すことができれば、友達同士の関わりがどれほど深まることでしょう。SNS等が普及しデジタル化が進む現代社会だからこそ、自分の使う言葉が大きな力をもっていることを知り、丁寧に使っていく態度を育てていきたいです。

先週は、市役所や地域の方々など学校関係者が来校し、校内を案内する機会が多くありました。すると「どの学年の子ども、しっかりと挨拶をしてくれますね。」「気さくに話しかけてくれるので、うれしいです。」と皆様が口をそろえて感心されていました。あらためて本校の子どもたちの素直さと礼儀正しさに感心させられた次第です。これからも、このような心温まる優しい言葉があふれる町田第五小学校を目指していきます。

熱中症を防ぐために

交通事故も命にかかわりますが、熱中症も子どもたちの命にかかわる危険があります。熱中症は、夏だけ注意をすればよいではありません。4月、5月、6月において、気温の差が大きい時は、注意が必要です。夏の25℃は、あまり高くないかもしれませんが、前日15℃だった場合などは、10℃の気温差があり、子どもの体にとって大きな負担になります。熱中症の発生リスクが高まります。

熱中症を防ぐには、こまめな水分補給、運動時において無理をしないこと、睡眠時間の確保等の体調管理などがあります。朝の登校時も熱中症の心配な時間です。暑い中、日陰もあまりなく坂道を登ってくると体力を使うことになり、熱中症の危険が高まります。登校時の熱中症を防ぐためにも、家を出る前に水分を補給していただければと思います。また、登校中にも、後ろの安全を確認し、止まって水分を取るよう声をかけていただきたいと思います。大切なお子様の体を守るためによりしくお願いします。